

寅さん歩 その26

東京の主要道路の起点～終点

道灌山通り



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」、「平和橋通り」、「大久保通り」、「蔵前橋通り」と歩いてきました。

今回は「道灌山通り」を歩きます。道灌山通りは文京区不忍通りの道灌山下交差点を起点に、荒川区西日暮里の明治通り・尾竹橋通りが交差する宮地交差点に至る延長約2kmの道です。写真右上は道灌山通りの道路名標識（都道457号線）です。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[道灌山下交差点] 文京区千駄木三丁目 最寄駅 JR 西日暮里駅



道灌山通りの起点は不忍通り（都道437号線）道灌山下交差点（写真左）で左へ行く道です。次の信号で文京区から台東区に入り、すぐに荒川区に入る区境地点です。

この先右側に道灌山があります。縄文時代の貝塚が発見され土器などが出土しています。

地名の由来としては中世、新堀（日暮里）の土豪、関道閑（せきどうかん）が屋敷を構えたとか、江戸城を築いた太田道灌が出城を築いたなどの伝承があります。この一帯は「ひくらしの里」と呼ばれ、江戸時代に人々が日の暮れるのも忘れて四季おりおりの景色を楽しんだところから「新堀」に「日暮里」の文字をあてたとされています。

[開成中学校・開成高等学校] 荒川区西日暮里三丁目

最寄駅 JR 西日暮里駅

1871年（明治4年）神田淡路町に共立（きょうりゅう）学校として創立、1895年（明治29年）開成と改称、1924年（大正13年）現在地に移転、1947年（昭和22年）開成中学校が発足、1948年（昭和23年）開成高等学校が発足し中高一貫校となりました。東京大学合格者数第一位の超有名校です。写真下左は道灌山下交差点から左側を歩いて来た時の上り坂、写真下右は西日暮里駅から出て道灌山通りを跨ぐ歩道橋の上り階段です。さしずめ東大合格への上り口です。



写真下左が開成高等学校、奥に中学校があります。今までは下から見ていただけでしたが、寅次郎、今回初めて上まで上がり、狭き東門を見ました。もちろん入れずに、すごすご帰りました。



[西日暮里公園] 荒川区西日暮里三丁目

最寄駅 JR 西日暮里駅

開成高等学校を挟んで道灌山通の反対側の山は西日暮里公園です。JR線の脇の坂（写真下左）を上ると公園入口（写真下右）があります。



公園内には道灌山の説明板があり「道灌山の大半は秋田藩主 佐竹氏の抱屋敷になりますが、東の崖ぎわは人々の行楽地・憩いの場となり、筑波・日光の山々が展望できたといひます。また薬草が豊富で多くの採集者が訪れました。花見・月見・雪見・虫聴の名所として、十辺舎一九はこう読んでいます。

桃さくら鯛より酒のさかなには

みどころ多き 日くらしの里

また長谷川雪旦や安藤広重らの著名絵師の画題となり、今日にその作品が伝えられています。写真下左は“江戸百景”道灌山（安藤広重画）、写真下右は“道灌山虫聴”大日本名所図会（尾形月耕画）です。



1973年（昭和48年）西日暮里公園が開園し、区民の憩いの場となっています」と記載。

[西日暮里駅] 荒川区西日暮里三丁目



西日暮里駅はJR線、東京メトロ千代田線、日暮里・舎人(とねり)ライナーがあります。写真右の右側の上がJR山手線と京浜東北線の駅、地下が東京メトロの駅です。

JR線のガードをくぐると左側に日暮里・舎人ライナーの駅があります。日暮里・舎人ライナーは都営のモノレールです。

詳しくは寅さん歩462 尾久橋通り-1及び463 尾久橋通り-2をご覧ください。

[西日暮里五丁目交差点] 荒川区西日暮里五丁目

最寄駅 JR 西日暮里駅

西日暮里五丁目交差点(写真下右)で尾久橋通り(都道58号線)と交差します。左へ行くと尾久橋方面、右へ行くと鶯谷方面です。道灌山通り(都道457号線)は直進します。交差点の上は日暮里・舎人ライナーでその下は日暮里・舎人ライナーの西日暮里駅に向かう歩行者通路です。前方に見えるガードは日暮里発着の京成本線で西日暮里には止まりません。



[宮地交差点] 荒川区西日暮里一丁目 最寄駅 JR線 西日暮里駅

明治通り（都道 306 号線）の宮地交差点（写真下右）が道灌山通り（都道 457 号線）の終点です。尾竹橋通り（都道 313 号線）は三河島方面から来て、明治通りと交差し、宮地交差点を右折して西新井・尾竹橋方面へ向かいます。正面上は宮地陸道（明治通りのバイパス）です。明治通りは左へ行くと王子方面、右へ行くと三ノ輪方面です。



短い距離の道灌山通りでした。戻って江戸時代からの「ひくらしの里」をゆっくり歩いて道灌山下の社寺や史跡を楽しむことをお勧めします。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩 379 令和3年10月から掲載済です。今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進捗のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年10月13日江尻宿（現在の静岡県静岡市清水区）（江戸日本橋から164km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「江尻 三保遠望」です。家康の霊廟のある久能山から三保の松原を遠望した図です。左奥の山塊は愛鷹山です。本来は右にあるはずの伊豆半島が描かれていません。

江尻宿は駿河で府中宿に次ぐ大きな宿場でしたが、今日では「江尻」の名は地名として残るのみで、むしろ清水港や清水次郎長（写真下左）で知られる町になっています。三保の松原は宿内から南に下った所にあり平安の昔から景勝地として知られてきました。名物は追分羊羹（写真下右）、久能山のいちごなどがあります。追分羊羹は江戸初期、とある砂糖商人が箱根山中で旅の途中ながら病気で苦しむ明（中国）の僧に出会い、手厚く介抱したところ、病が癒えた僧は深く感謝し、小豆のあつものづくりの秘法を伝授して旅立っていったとのこと。それが追分羊羹の発祥で、その後街道沿いの追分付近で商いされました。



毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

今回で2023年（令和5年）「寅さん歩」の歩き納めです。1年間のご愛読ありがとうございました。東京の主要道路の起点～終点シリーズは1年間で23本の東京の道路を紹介しました。2021年（令和3年）10月開始からの合計では49本です。まだもう少し残っていますので2024年（令和6年）へ続きます。

皆様、良いお年をお迎えください。

平野 寅次郎 拝